

幼小の円滑な接続のあり方

～見通しをもった生活や遊びを通して、幼小の
接続の視点から健康な心と体を考える～



山名裕子
(秋田大学教育文化学部)

1

今日のお話として…

0. 第5分科会として共有してきたこと
1. 幼保連携型認定こども園外旭川わんわんこども園さんの発表& 質疑応答&協議を受けて…
2. 幼小の「円滑」な「接続」として考えたいこと
3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と発達過程の理解



2

1. 今日の研究発表&協議から…

(1) ドッジボールという活動を通して考える

「ルール」や「勝敗・勝負」の理解

「クラスの仲間」「チームの仲間」という意識の広がり

(2) M子の姿

なぜM子？

保育者が「気になる」と思ったことは？

(3) 育ってほしい姿、育てたい姿、そして…伝えたい姿とは？



5

2. 幼小の「円滑」な「接続」として考えたいこと

(1) 小学校入学に際しての不安や期待

それぞれの立場からの不安や期待

でも…一番に考えるべきは「子どもの姿」

環境の変化を自分なりに受け止められる「子どもの姿」
として育ってほしいと願うことは？

子ども自身が不安を乗り越える（不安として受け止める）、
環境に適應するために必要なことって…何？

そして…不安や戸惑い以上に抱いている期待！



14

(2) 「円滑」な「接続」とは

① 「円滑」の中身！

- 生活様式、生活形態の変化を考えるだけ？
(例えば、スタートカリキュラムの課題)
- 「行動」ではなく「経験」として考える
- 当然のことですが…「子ども」が主語となっている？



15

② 「交流」「連携」だけでなく「接続」として考える

- お互いの「違い」を知り、理解すること
- 「交流」や「連携」を通して子どもの姿を共有したり、信頼関係を築くこと
- 各園ごとのかわりも大切、でも就学前教育として大切なことも…
- そして…「接続」
小学校での生活様式や生活形態、ルールではなく、
幼児期で培った「学び」「経験」をつなげること

方向目標としての
幼児期の終わりまで
に育ってほしい姿

保育の記録
全体的な計画と指導
計画



16

3. 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と発達過程の理解

(1) 方向目標としての理解

「資質・能力」を育んだ結果としての

「幼児期の終わり」までに「育ってほしい」10の「姿」

「卒園式」？
「小学校入学」？
そもそも幼児期って
いつまで？

「育てないといけない」「育つ」
「育った」「獲得した」？

「力」「能力」？



「一つ一つの取り出した姿」「5領域は関係ない」「前倒しの教育」？



18

(2) 一人ひとりの発達過程の理解

- 一人ひとりが育ってきた過程
- 年齢の特徴とその子どもの発達過程の理解
5歳児後半に表れやすいけれど、それまでの過程が重要
→園の中で「前倒し教育」になっていない？
「できる—できない」にとらわれていない？
- 「行きつ戻りつ」する発達過程
特に環境が変わるとき、かかわりが変わるときの姿

「行動」ではなく「学び」「経験」として
つながるであろう「子どもの姿」を語ること



20